

## 第4節 学習環境の整備の実践事例

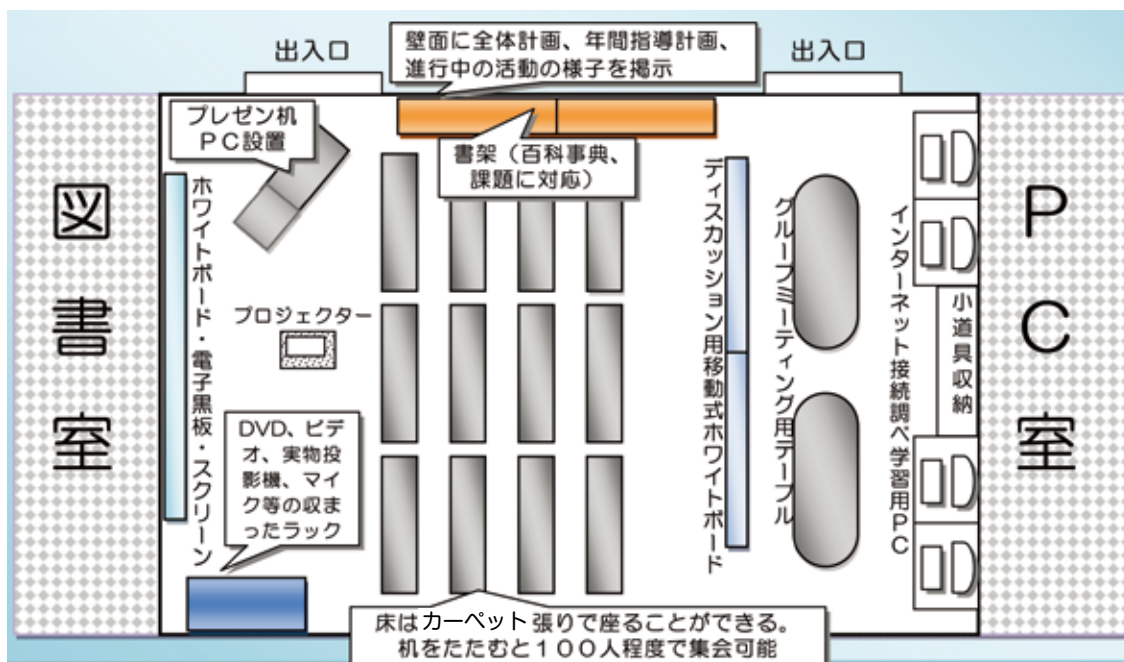
横断的・総合的な学習や探究的な学習に生徒が意欲的に取り組み、そこでの学習を深めていくには、学習環境が適切に整えられていなければならない。

総合的な学習の時間では、ねらいや学習活動等が各学校で異なるために、一律に同様の環境を整備しでもうまくいかない場合が多い。まず、各学校が総合的な学習の時間のねらいを実現するために必要な学習環境を明らかにし、それに向けた環境整備の工夫や努力をいかに行うかが求められる。

### 事例① 総合的な学習の時間に使用することを主目的として余裕教室を整備した例

K高校は、各学年2学級の小規模校です。学級数減による空き教室が生じたこと、校舎の一部改修が行われたのをきっかけに、図書室とパソコン（以下、PC）室の間に総合的な学習の時間で主に使用することを想定した「多目的室」を整備することとなりました。この多目的室の整備は、「総合的な学習の時間推進委員会」が自校の総合的な学習の時間の学習内容等を考えデザインしました。

整備にあたっては、床カーペット張り、ICT機器整備のための予算、一部PCをPC室から移動するための予算を教育委員会から配当された他は、校内にある備品、教材を集める等の工夫をしました。

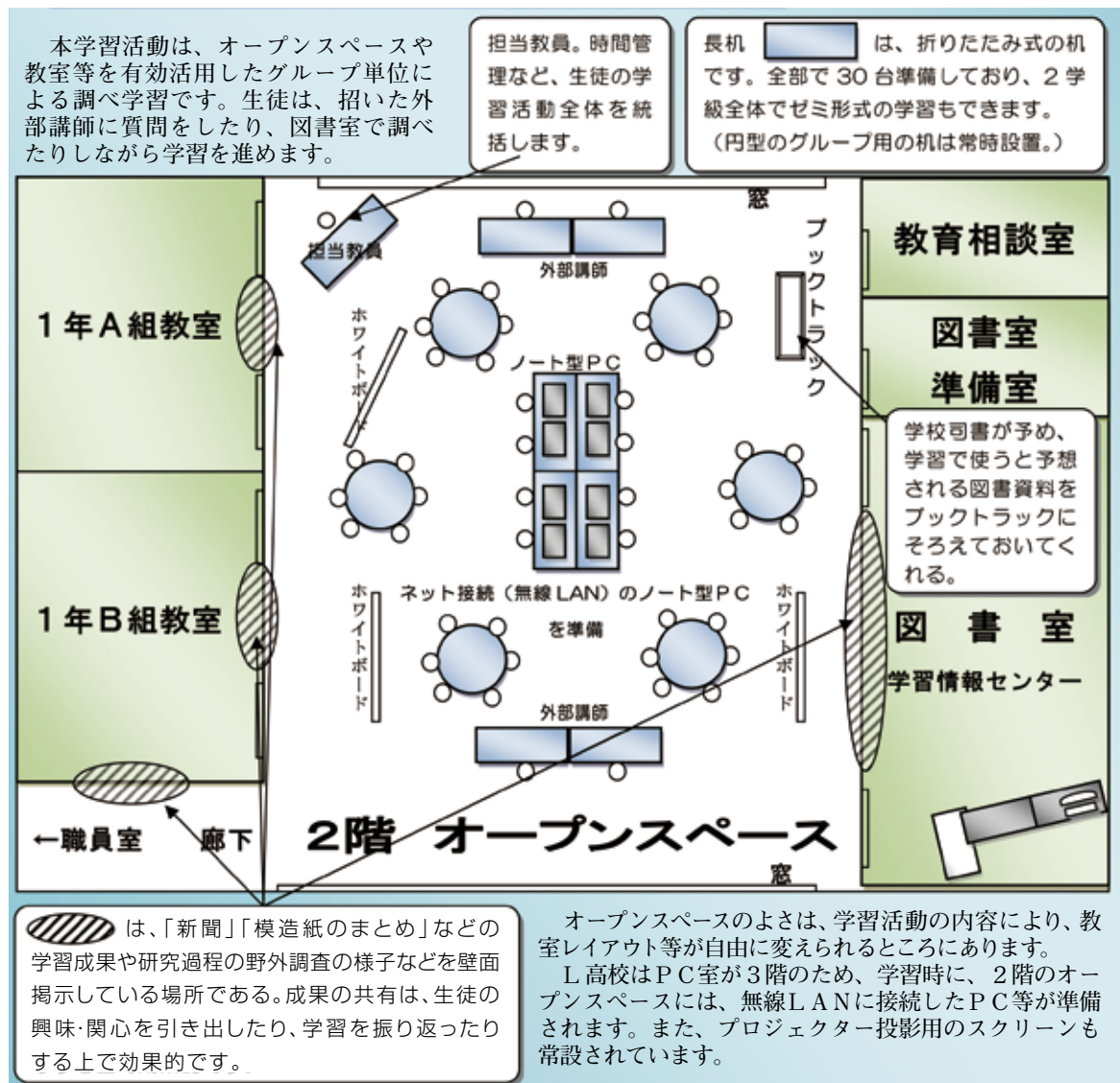


## 事例② 多様な学習活動に応じたオープンスペースの有効活用の例

L 高校は、各学年 2 学級の小規模校です。12 年前に校舎の改築が行われ、2 階部分、3 階部分の教室前に広場のようなオープンスペースができました。しかし、そのスペースは、学年集会や部活動の室内練習で活用されることがほとんどで、教科授業では、使用されることがありませんでした。

前任校で総合的な学習の時間コーディネーターであった教頭は、このスペースを総合的な学習の時間に有効活用できると考えました。そして、着任当初の 4 月に当該校の総合的な学習の時間担当である第 1 学年の主任教諭に、自分自身が考えたオープンスペース活用案を総合的な学習の時間推進委員会で検討し、各学年の学習活動の内容に応じて、実践してみるよう働きかけました。同時に事務職員に、オープンスペースで使用するミーティング用の机、椅子についての購入を相談しました。

推進委員会では、活用の仕方等について、様々なアイデアが出された他、各学年で学習活動の特性を踏まえ、オープンスペースを積極的に活用していくことになりました。

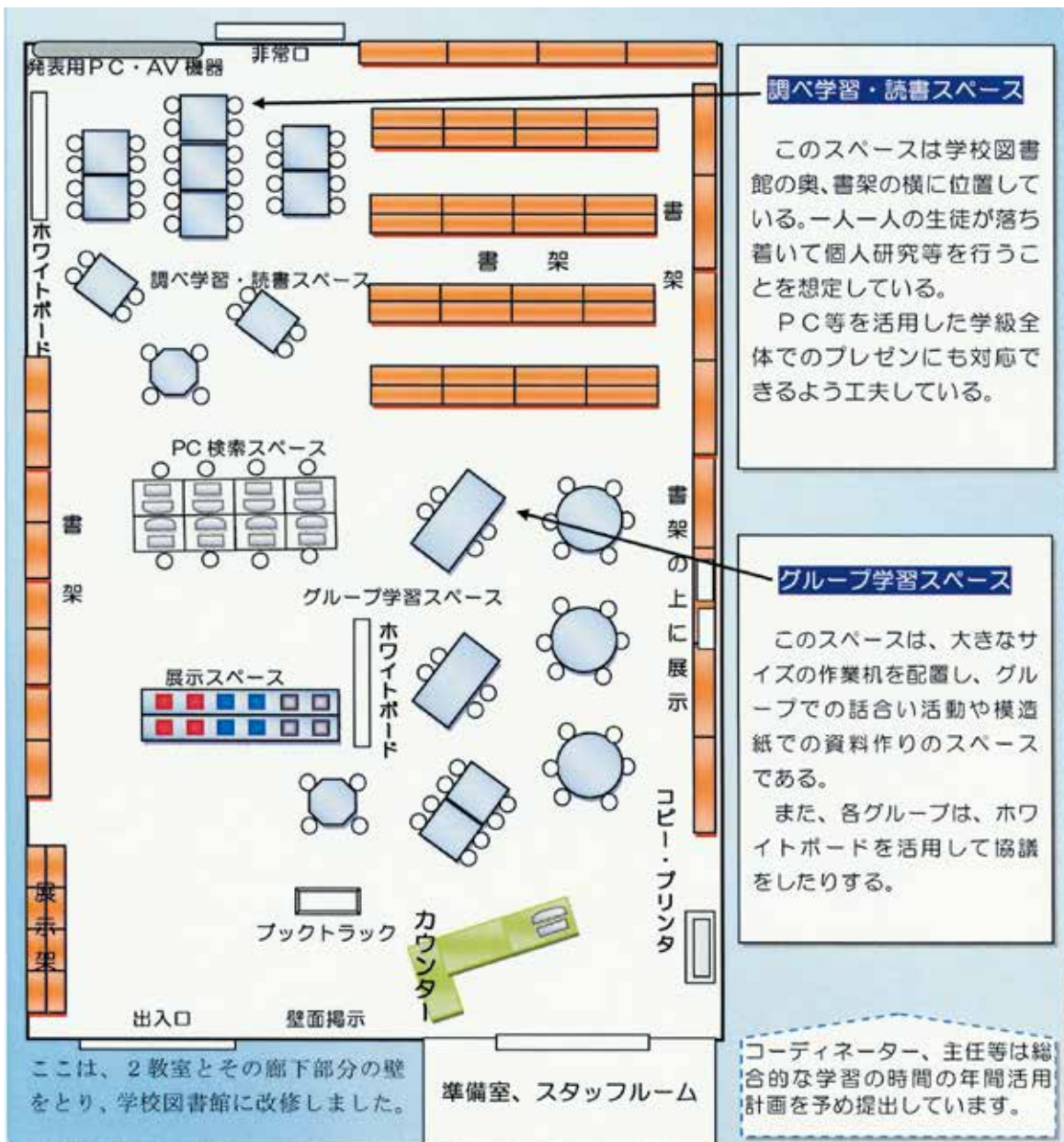


**事例③ 学習・情報センターとしての学校図書館の例**

総合的な学習の時間を進める中、課題を解決したり、学習の中で疑問が生じたりしたとき、必要な情報を収集し活用できる学校図書館の環境を整えておくことは、問題の解決や探究活動を充実させるために大切なことです。

M高校は、20学級を越える大規模校です。この規模では、総合的な学習の時間等の調べ学習で学校図書館を活用する際も、2学級入れるだけのレイアウト等が必要になります。

M高校では、校舎の改修工事を進める際、学校図書館を整備する要望を出し、「学習・情報センター」としての機能が充実した学校図書館となりました。館内には、落ち着いて個別学習ができる「調べ学習・読書スペース」とグループごとの話し合いや作業をするための「グループ学習スペース」を作りました。



## 第5節 外部との連携の構築の実践事例

総合的な学習の時間では、地域の素材や地域の学習環境を積極的に活用することが期待されており、その実現のためには、保護者や地域の人々、専門家をはじめとした外部の人々や社会教育施設や社会教育関係団体等との連携・協力が欠かせない。

外部連携に当たっては、管理職、総合的な学習の時間コーディネーター等の担当者が中心となり、外部人材等と連絡・調整の機会を定期的に設定することが重要である。しかし、総合的な学習の時間コーディネーターが代わることで、それまで築き上げてきた結び付きが薄れてしまう場合も想定される。そのようなことが起こらないよう、校内に外部連携を効率的・継続的に行うためのシステムの準備が必要である。ここでは、外部連携のためのシステムや外部連携を適切に行うための配慮事項を記す。

### 外部連携のための5つの留意点

日常的な関わり	・協力的なシステムを構築するためには、日頃から外部人材などと適切に関わろうとする姿勢をもつことが大切である。
担当者や組織の設置	・校務分掌上に地域連携部などを設置したり、外部と連携するための窓口となる担当者を置いたりする。 ・地域との連絡協議会などの組織を設置することも考えられる。
教育資源のリスト	・学校外の教育資源を活用するために総合的な学習の時間に協力可能な人材や施設などに関するリスト（人材・施設バンク）を作成する。
適切な打合せの実施	・外部人材に対して、適切な対応を心掛けるとともに、授業のねらいを明確にし、教師と連携先との役割分担を事前に確認するなど、十分な打合せをする必要がある。
学習成果の伝達	・学校公開日や学習発表会などの開催を通知したり、学校便りの配布などをしたりして、保護者や地域の人々に総合的な学習の時間の成果を発表する場と機会を設ける。

#### 事例① 学校支援本部による地域人材バンクの例

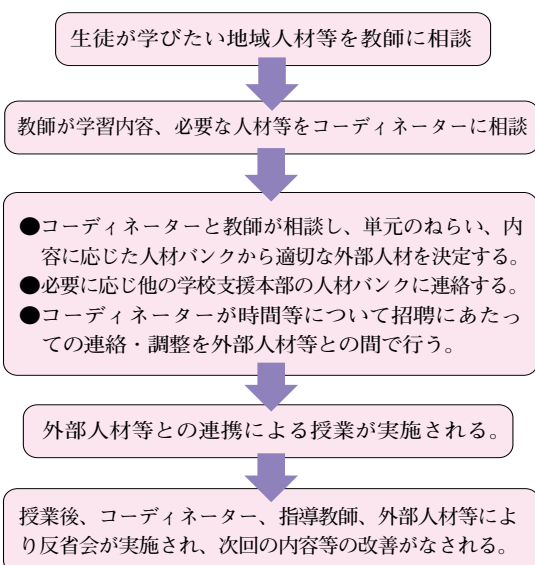
大都市にあるN高校には、保護者、地域の人々により学校の教育活動全般を支援する組織「学校支援本部」が設立されました。

学校支援本部には、学校と地域との連携した活動を中心となって推進する学校支援コーディネーターが置かれています。現在、そのコーディネーターを中心に、学校の教育を支える人材の募集、リストづくり、研修、派遣事務等が行われています。

このことにより、教師、生徒は、総合的な学習の時間等に必要の人材等を学校支援コーディネーターに相談することで効率的に活用できるようになりました。学校支援本部は、区内の多くの学校で設置され、ネットワーク化されています。そして、人材バンク間の相互紹介がなされています。

#### 総合的な学習時間における

#### 「学校支援コーディネーター」活用の流れ



## 事例② 総合的な学習の時間を活用して市の政策に提言する例

地方都市にある市立O高校は、全15学級の中規模校です。O高校は、地域社会の一員としての当事者意識をもって自己の在り方生き方を考える人づくりを目標に掲げ、2年生の総合的な学習の時間では生徒が模擬市職員となって市政の課題を考え、解決策や改善策を提案する単元に半年かけて取り組みます。

4月には、2年生200人が市の人事課研修担当から「辞令」を交付された後、環境・保全、健康・福祉、広報、観光、安全・防災の5つの課に分かれ、各課の担当者から基本政策を学んだ後、少人数のグループごとに政策に関心をもった点や改善すべき点等を熟議し、探究したい課題について話し合います。

例えば、安全・防災課では、大規模な地震が発生した場合に被害を最小限にとどめるために市民がどのように協同することが必要か、また、高校生として地域のために何をするべきかなどの課題が探究の対象となり、避難所運営ゲームや高齢者福祉施設の訪問に取り組んだり、ハザードマップをもとに災害時の地域連携の在り方について地域住民からの聞き取り調査に取り組んだりした体験をもとに解決策や改善策をまとめていきます。また、観光課では、市の観光計画をもとに現地実習をして観光客の目線でプランの長短を評価したり、実際の観光客の感想・意見を聞き取り調査したりして解決策や改善策をまとめていきます。

今年は、総合的な学習の時間コーディネーターを中心に、市役所の行政担当者だけでなく、大学教員や地域の有識者、NPO、市民団体等を核とするネットワークを構築し、O高校が市政の課題を探る熟議の場として機能するまでに発展しました。O高校での総合的な学習の時間が、市政に果たした役割は大変大きいと言えます。

